

佐賀大、駐日バハマ大使

IOES久米島サテライト視察

駐日バハマ大使のセドリック・スコット閣下が9月22〜24日にかけて、沖縄県久米島町にある、佐賀大学の海洋エネルギー研究所(IOES)久米島サテライトを視察した。同研究所の概要について説明を受けるとともに、同施設で取水した海洋深層水を利用した農業・水産業・製造業の施設等を見学した。



駐日バハマ大使一行(前列左から3名)と池上海洋エネルギー研究所長(同中央)、桃原久米島町町長、中村副町長(同中央右から2名)ら。同研究所は、海洋エネルギーに関する研究教育及び科学技術を戦略的に推進する国際的な先進的中核研究拠点として、21世紀の地球規模でのエネルギー問題と環境問題の解決に寄与することを目的としている施設である。久米島サテライトは、沖縄県海洋深層水研究所敷地内に設置されており、海洋温度差発電(OTEC)エネルギーの複合利用として、海水淡水化の研究を中心に行っている。

スコット駐日バハマ大使は久米島サテライト視察に先立ち、桃原久米島町長を表彰し、桃原町長より、久米島の紹介が行われた。久米島サテライトの視察や学術交流協定書の手交にあたっては、久米島町役場をはじめとする職員や(一社)国際海洋資源エネルギー利活用推進コンソーシアムの事務局による全面的な協力のもと実施された。

佐賀大、令和5年度夏休み

学童保育ミニカッチー教室

佐賀大学ダイバーシティ推進室は7月26〜28日、教職員のワークライフバランスの充実を目的に「学童保育」を実施した。写真。



同大公式キャラクター「カッチーくん」の名を冠した「カッチー教室」は毎年大人気で、今年は大学教員や学生サークル等による6つのプログラムを実施した。医学・工作・異文化交流・調理・実験・運動などの、じっくり企画された多彩なプログラムは、総勢40名の子どもたちにとってわくわくどきどきがあふれる3日間となった。

佐賀大学

さが藻類産業共同研究講座設置

佐賀大学は10月1日、一般社団法人さが藻類バイオマス協議会との間で、同大3例目となる共同研究講座「さが藻類産業共同研究講座」を設置した。設置期間は令和10年3月末までとし、さが藻類バイオマス協議会から人材及び研究費を受け入れ、藻類バイオマスの特性を活かした地域の発展及び地域産業の創生に資するための人材育成と研究開発、藻類の基礎培養から大量培養に関する研究、また藻類に関する研究開発事業を統括することを目的としている。

同事業では、平成28年8月に佐賀市、同大、筑波大学が締結した「藻類バイオマスの活用に関する開発研究協定」に基づき、藻類産業創出のための研究拠点として、平成30年3月に同大内にさが藻類産業研究開発センターを

設置。同年4月より筑波大学から出村特任准教授が農学部へ着任し、出村特任准教授をプロジェクトリーダーとして、佐賀市からの受託研究(藻類バイオマス利活用に関する開発研究)を行ってきたが、組織対組織で同研究を更に発展させ、関連企業等に研究成果の還元を促進するため、新たに「さが藻類産業共同研究講座」を開設するに至った。

なお、さが藻類バイオマス協議会は、産官学金の多様な主体が連携し、地域資源と藻類を活用した事業展開の環境を整備し、藻類およびバイオマス産業の創出及び集積を図ることと、佐賀市を中心に佐賀県において低炭素社会の実現に寄与しながら、経済の活性化と雇用を創出することを目的としている組織だ。

■佐賀市における藻類バイオマスの活用に関する開発研究協定について(佐賀大学地域連携紹介マップ) : https://www.suric.saga-u.ac.jp/s_regional_wp/saga_project/5310/